

# 「RSウイルス感染症と 保育施設利用に関する意識調査」を実施

October 01, 2015

## アツヴィ、保育施設に2歳以下の子どもを預けている両親を対象に「RSウイルス感染症と 保育施設利用に関する意識調査」を実施

- RSウイルス感染症をどのような病気が詳しく知らない両親は約7割、RSウイルス感染症の重症化のリスクを知っている両親は約2割であった。
- 子どもが病気の疑いがあっても、保育施設を利用したことがあると答えた両親は約6割であった。
- 背景として、子どもの病気や怪我のためとはいえ、仕事を休みづらいと感じている両親が約6割を占めることが明らかになった。

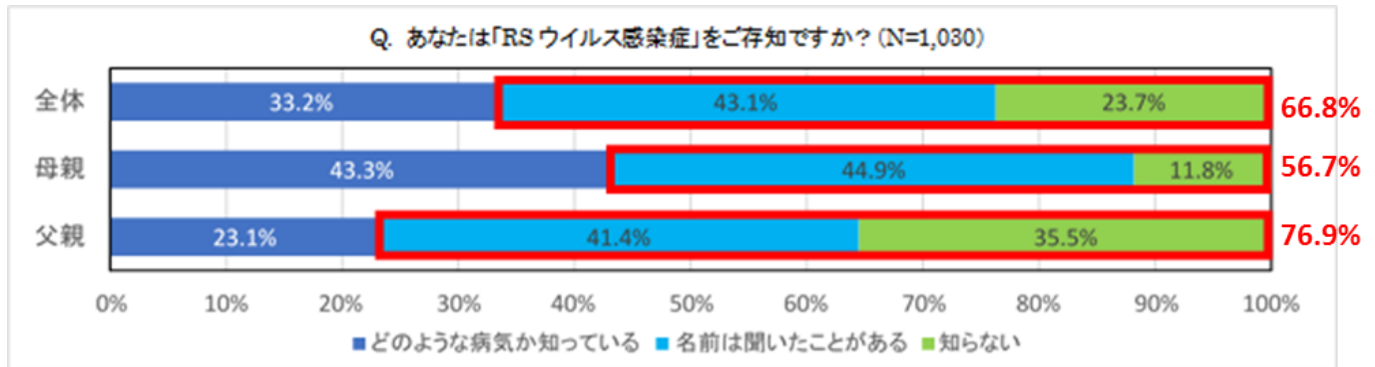
アツヴィ合同会社（本社：東京都港区、社長：ジェームス・フェリシアーン）は、本年7月、全国の保育施設に2歳以下の子どもを預けている両親（母親515名、父親515名）を対象に、「RSウイルス感染症と保育施設利用に関する意識調査」を実施しました。調査の結果は、以下の通りです。

### 【調査結果】

#### ■ 「RSウイルス感染症をどのような病気が詳しく知らない」両親は、約7割

- 保育施設に子どもを預ける両親のうち、RSウイルス感染症がどのような病気が知っていると答えた両親は33.2%、名前は聞いたことがあると答えた両親は、43.1%、知らないと答えた両親は23.7%と、RSウイルス感染症をどのような病気が詳しく知らないと答えた両親が66.8%を占めることが明らかになった。
- RSウイルス感染症がどのような病気が詳しく知らないと答えた母親は56.7%、父親は76.9%と、母親と父親では、RSウイルス感染症の認知度に、20.2ポイントもの差があった。

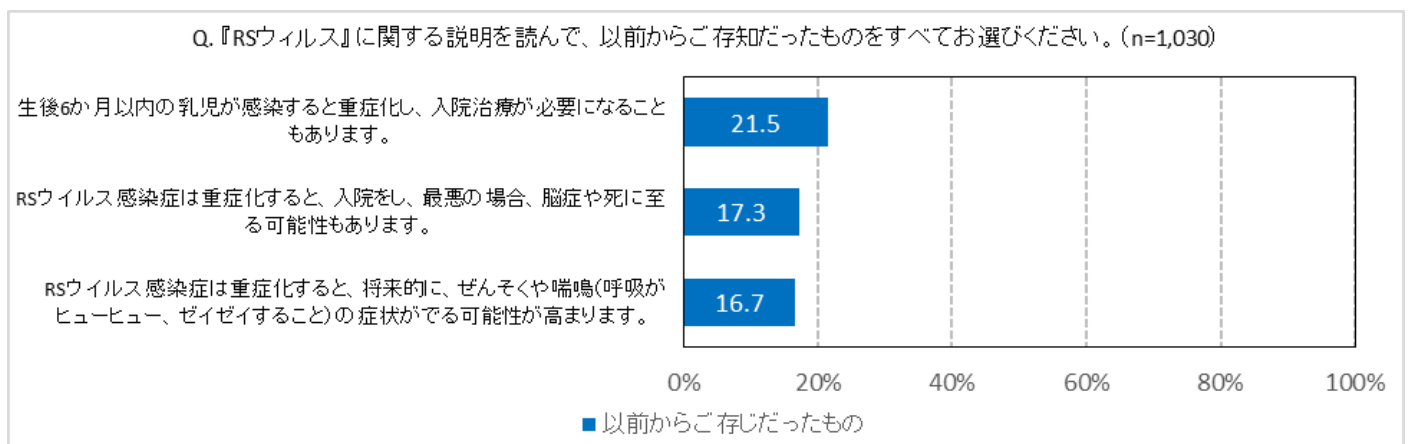
### 【グラフ1】



#### ■ RSウイルス感染症の重症化のリスクを知っている人は、約2割のみ

- 生後6か月の乳児が感染すると重症化し、入院治療が必要になることを知っているとした人は、全体の21.5%であった。
- RSウイルス感染症は重症化すると、脳症や死に至る可能性があることを知っているとした人は全体の17.3%であった。
- RSウイルス感染症は、重症化すると、将来的に、ぜんそくや喘鳴(呼吸がヒューヒュー、ゼイゼイすること)の症状が出る可能性があることが知っている人は、全体の16.7%であった。

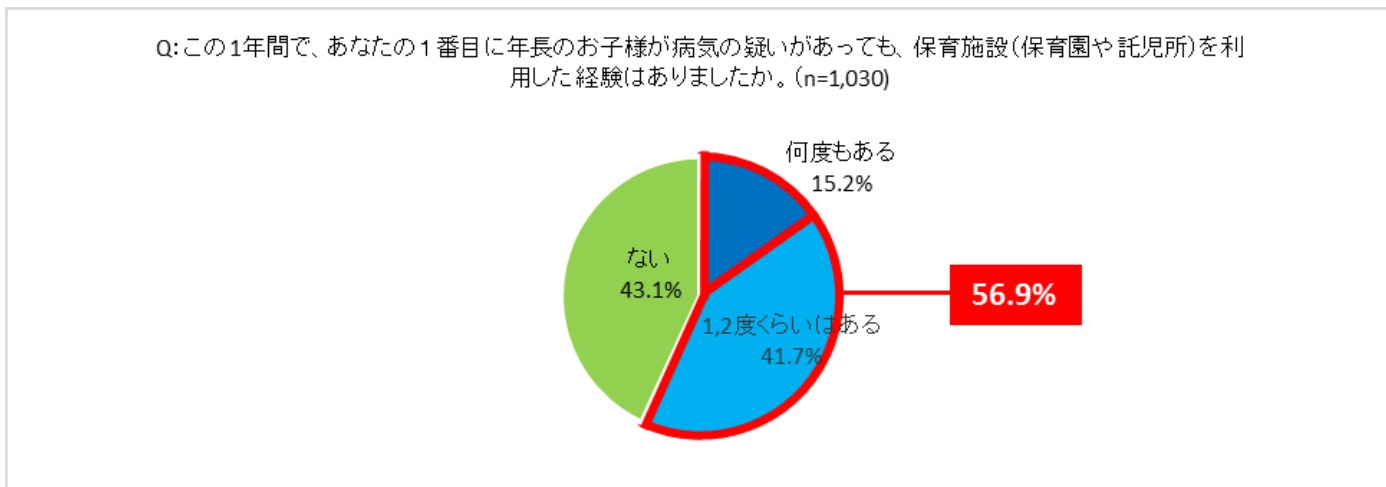
### 【グラフ2】



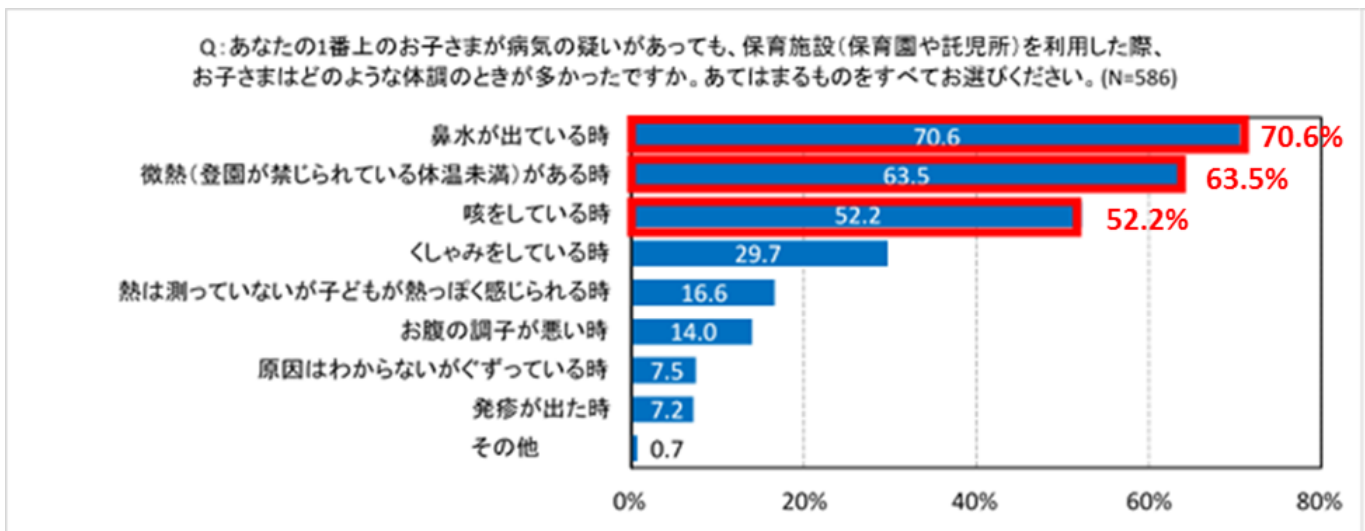
■ 子どもが病気の疑いがあっても、保育施設を利用したことがあると答えた両親は約6割。保育施設に預けた際の子どもの体調として最も多かったものは、“鼻水が出ている時”、次いで、“微熱がある時”、“咳をしている時”

- この1年間で、年長の子どもが病気の疑いがあっても保育施設を利用した経験があると答えた両親は、全体の56.9%でした。
- 子どもが“鼻水が出ている時”に保育施設を利用したことがある両親は70.6%、“微熱がある時”に利用したことがある両親は63.5%、“咳をしている時”に保育施設を利用したことがある両親は、52.2%であった。

【グラフ3】



【グラフ4】

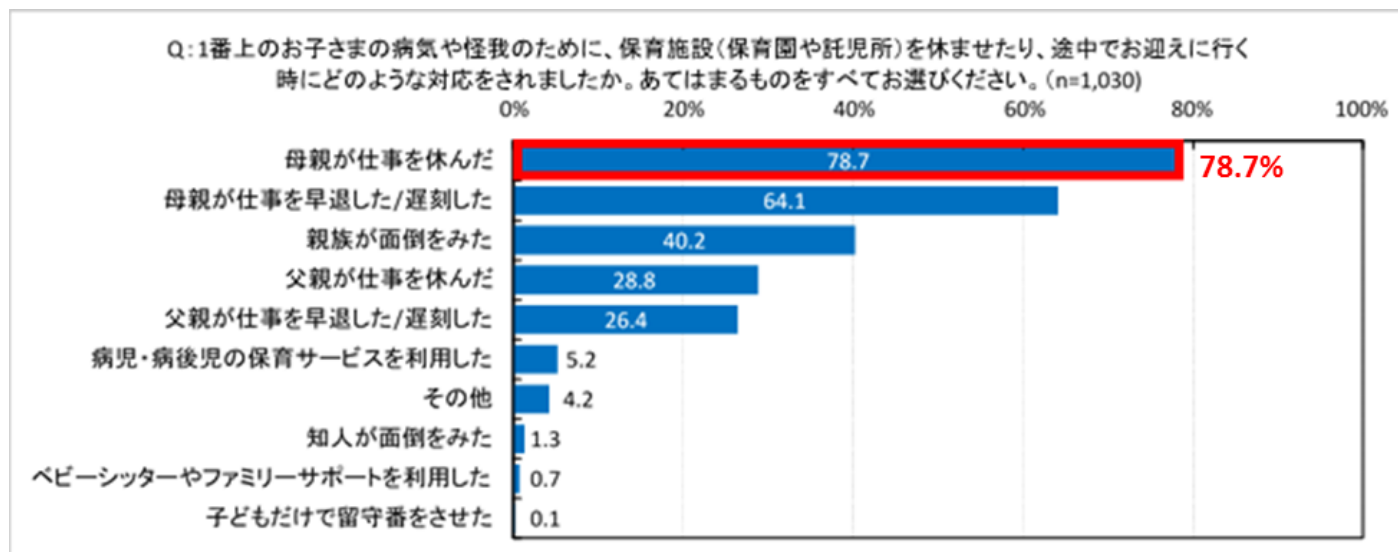


また、調査結果から、子供が病気の疑いがあるにも関わらず保育施設に預ける背景として次のような意識や環境が浮き彫りとなりました。

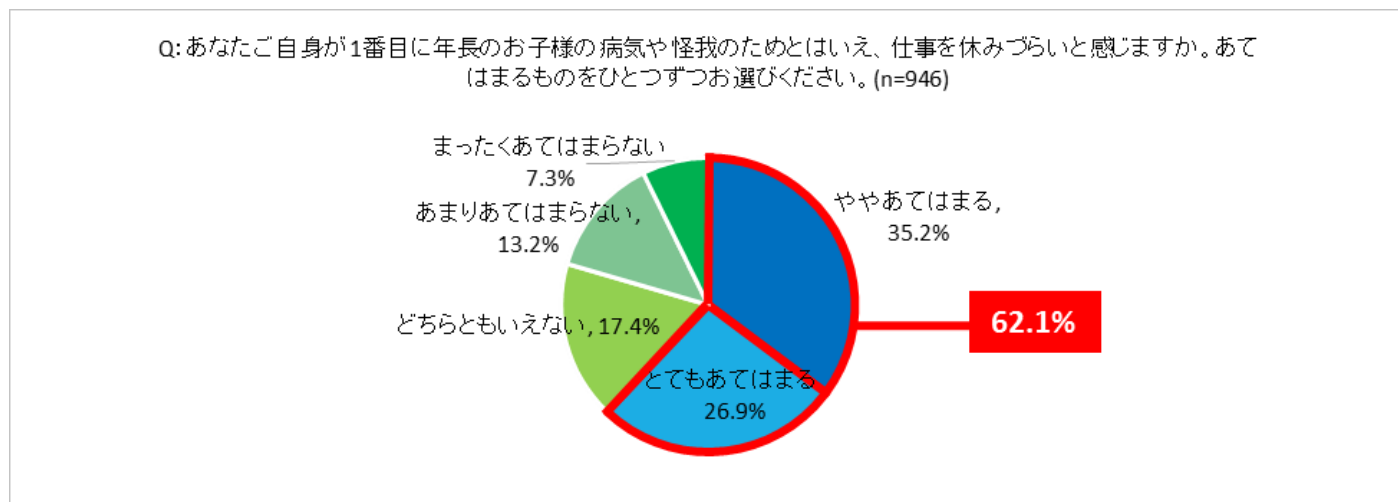
■ 子どもが保育施設を休む場合やお迎えに行く場合に、「母親が仕事を休んだ」と答えた両親は約8割、子どもの病気や怪我のためとはいえ、仕事を休みづらいと感じている両親は約6割

- 78.7%の両親が、子どもが保育施設を休む場合やお迎えに行く場合に、「母親が仕事を休んだ」と答えた。
- 62.1%の両親が、「子どもの病気や怪我のためとはいえ仕事を休みづらい」と感じていると答えた。

[グラフ5]



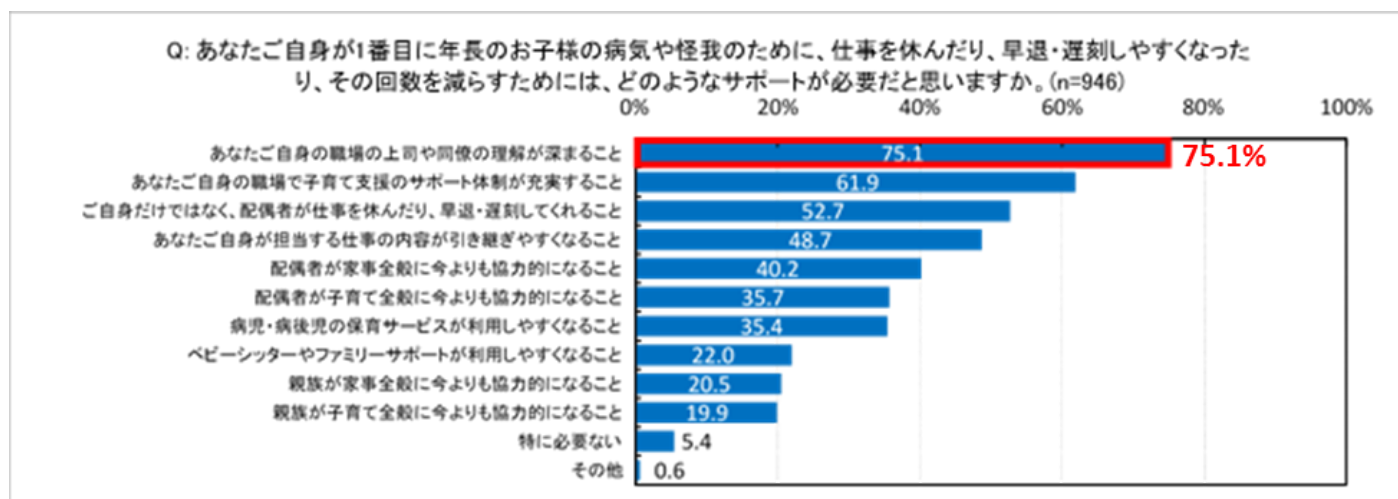
[グラフ6]

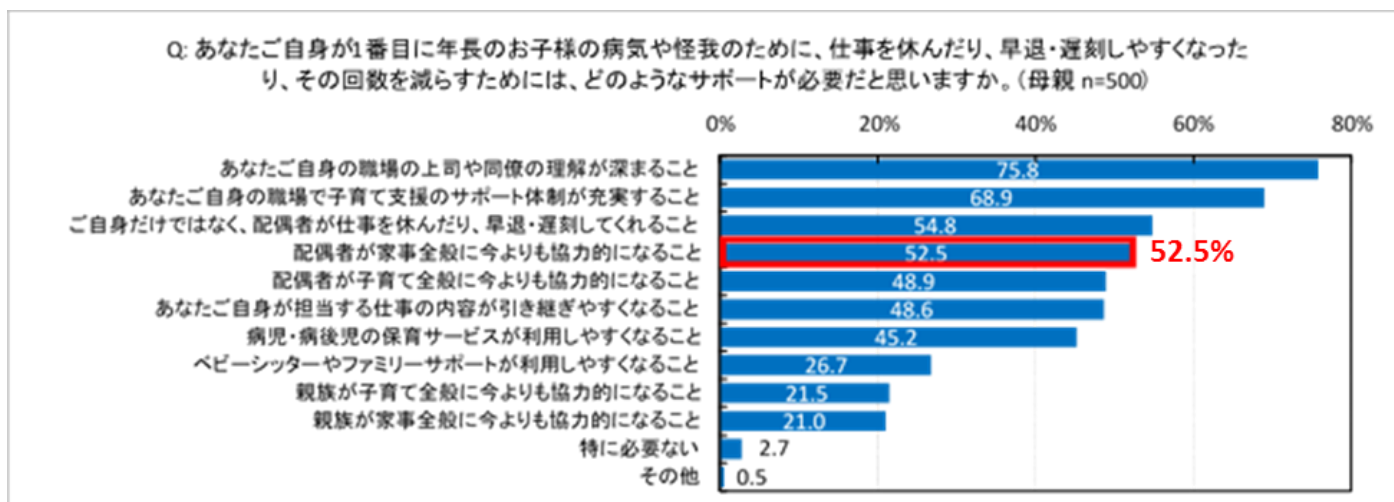


■ 子どもの病気や怪我の際に、早退/遅刻しやすくなったりするためには、職場の上司や同僚の理解が必要であると答えた人は約8割。配偶者のサポートを求める母親は5割以上

- 75.1%が、子どもが病気の際に仕事を休みやすくなったり、早退/遅刻しやすくなったりするためには、職場の上司や同僚の理解が必要であると答えた。
- 52.1%の母親が、配偶者が家事に協力的になることが必要であると答えた。

[グラフ7]





本調査の監修を務めた公益財団法人 東京都保険医療公社 多摩北部医療センター 小児科部長 小保内 俊雅 先生は、「RSウイルス感染症は、生後6か月以内の乳児や早産児、慢性肺炎患、先天性心疾患などの基礎疾患をもっている乳幼児が感染すると、症状が重症化しやすく、肺炎や細気管支炎や無呼吸を引き起こし、死に至る場合もあります。また、重症化すると将来的に喘息等の原因となることが知られています。今回の調査で、RSウイルスの認知度が非常に低いことが明らかになりました。また、多くの方が感染症の初期症状が出ているにも関わらず保育施設を利用していることが分かりました。感染症の初期症状が出ているにも関わらず保育施設を利用することは、子どもの容態を悪化させるのみでなく、保育施設における感染の拡大につながります。RSウイルス感染症の重症化や感染拡大を防ぐためには、職場環境や家庭内での、両親の育児の配分など、子どもの病気の際に両親が仕事を休みやすい環境が整えられることが必要です。また、RSウイルス感染症には、予防ワクチンや治療薬がないため、両親や保育施設の職員など、周囲の大人が、手洗いなどの基本対策でかからないように予防することが最も重要です」と述べています。

#### 感染症の予防対策

- ◎ 家族の外出の後や調理・食事の前、鼻をかんだ後などはよく手を洗う。  
手洗いは石鹸で30秒間指先～指と指の間までしっかりと洗う。
- ◎ RSウイルスが流行する冬の時期は、乳幼児を人ごみへ連れて行かない。
- ◎ 家庭内にかぜをひいている人がいるときは、乳幼児に近づけず、また乳幼児が触れるものをアルコール綿などでこまめに消毒する。
- ◎ かぜをひいている家族は、マスクを着用し、唾液や鼻水が飛び散らないように気をつける。
- ◎ タバコを吸う人に近づけない。また、子どもがタバコの煙を吸わない環境にする。

アヅヴィ合同会社では、全ての乳幼児の健康を守るために、RSウイルス感染症への適切な対策の重要性に関する啓発活動を展開しています。

#### 調査概要

- <調査対象者>  
2歳以下の子どもを保育施設に預けている母親 515名 / 父親 515名
- <調査手法>  
オンライン調査 (マクロミル・ネットモニターを利用)
- <調査時期>  
2015年7月
- <監修>  
公益財団法人 東京都保険医療公社 多摩北部医療センター 小児科部長 小保内 俊雅 先生

#### アヅヴィについて

アヅヴィは、アボットラボラトリーズからの分社を経て2013年に設立された、研究開発型のグローバルなバイオ医薬品企業です。専門知識や献身的な社員・イノベーション実現に向けた独自の手法を通じて、世界で最も複雑かつ深刻な疾患領域における先進的な治療薬を開発・提供することをミッションに掲げています。アヅヴィは、100%子会社のファーマサイクリックス社を含めて世界で28,000人以上を雇用し、170カ国以上で医薬品を販売しています。当社の概要や人材・製品群・コミットメントに関する詳細は[www.abbvie.com](http://www.abbvie.com)をご覧ください。よろしければTwitterアカウント@AbbVieもフォローください。また、人材情報はFacebookやLinkedInページをご参照ください。

日本においては、アヅヴィ合同会社の約800人の社員が、医療用医薬品の研究・開発や販売に従事しています。自己免疫疾患・新生児・肝疾患・ニューロサイエンスの各領域を中心に、患者さんの生活に大きく貢献できることを願っています。詳しくは、[www.abbvie.co.jp](http://www.abbvie.co.jp)をご覧ください。